

棚田発！日本のこころプロジェクト

代表者 杉田 碧唯 (農学部応用生物科学科2年)
報告者 桑原 七実 (農学部応用生物科学科2年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、小豆島中山地区の伝統ある棚田の景観や棚田米の素晴らしさをより多くの香川大学生、香川県民に知ってもらうことを目的としています。小豆島中山地区の棚田は全国棚田百選に選ばれており、持続させるべき文化的景観として注目されています。しかし近年、耕作者の高齢化により耕作放棄地が増加しているため景観の保全が大きな課題となっています。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さを様々な人に伝えることで小豆島、中山地区の棚田保全と地域振興を目指しています。

2. 実施期間（実施日）

令和1年4月1日から 令和2年3月1日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、例年の活動を基に継続、発展させたものです。お借りした棚田の一部での耕作活動に加え、水路掃除や農村歌舞伎、虫送りといった小豆島中山地区の事業にも参加しました。

お借りした棚田の一部の耕作活動では、学生が中山地区の農家の方々から作業をご指導していただきながら、代掻き、田植え、稲刈りを行い、その結果収穫されたもち米はお餅やお赤飯として、農学部の収穫祭で配布しました。また、三木町で行われる「ふれあい青空市」では昨年度収穫したもち米を用いて作った餅と赤飯を販売しました。どちらも、配布、販売すると同時に中山の棚田について記載されたパンフレットを配布し、小豆島の中山の棚田や私たちの活動の宣伝を行いました。一連の活動をすることにより、米、もち米の栽培について学べ、棚田の知名度向上や棚田の維持に貢献できたと考えます。

水路掃除では、2mにも及ぶ棚田に水を運ぶ水路の掃除の手助けを行いました。高齢化に伴う地域の人手不足を補い、棚田の維持に貢献できました。

棚田のオーナー制度は、中山地区の事業として棚田の一部を全国の一般の人々に貸し出す制度です。私たちはオーナー制度進行の手伝いやオーナーの方々の補助を行いました。

虫送りは約 300 年前から伝わる中山地区の伝統行事です。虫送り当日の参加だけでなく、虫送りに使う火手を作る手伝いも行いました。今年度は例年の活動に加え、虫送りの際に寄付金を募りました。集まった寄付金は、小豆島棚田保存会による棚田と伝統文化の維持費用に充てられます。

本年度は中山農村歌舞伎に役者として出演することや、舞台の準備などに参加することを通じて、地域の伝統文化の維持に貢献しました。

本年度はInstagramを利用し、棚田の情報を発信しました。また、棚田学会通信に記事を執筆しました。棚田学会通信とは、棚田の現代的意義の解明と棚田の継承に向けて結成された棚田学会により毎年 3 回発行される学会通信です。2019 年 6 月に発行された第 58 号に中山千枚田と私たちの活動に関する記事を掲載しました。中山千枚田や私たちの活動は 5 月 6 日に放送された西日本放送のニュースでも取り上げられ、地域に共感し関わる「関心人口」を増やすことができたと考えています。

以上のような活動を通じて地域の方々と、香川大学農学部との関係性を強めることができました。

昨年、我々は中山地区の棚田の景観保全、また耕作放棄地の荒廃を防止することを目的に、耕作放棄地に放任栽培が可能なカボチャを植えました。しかし、授業などの関係で小豆島に世話をしに来ることが困難で、中山の方々に負担がかかると考え、今年のかぼちゃの植え付けを行いませんでした。来年度以降は、かぼちゃの植え付け以外の耕作放棄地の荒廃の防止策を考える必要があると考えています。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域社会の活性化に寄与できました。

我々の活動によって地域の伝統文化である虫送り、中山農村歌舞伎、また中山の棚田について外部に PR することは、地域活性に繋がると考えています。PR の他にも我々は、全長 2km にも及ぶ棚田へと水を供給する水路の掃除や、先述したような伝統文化維持に関する活動を行うことで、高齢化に伴う地域の後継者不足に対する手助けとなり、棚田の維持につながったと考えています。収穫祭や三木町でのイベントでの餅や赤飯、棚田について記載されたパンフレットの配布や、Instagramでの広報や棚田学会通信への執筆、西日本放送のニュースへの取り上げなどで、農学部周辺から県外の方まで広い範囲の方々に関心を持って頂くことができたと考えます。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトの構成員は昨年度からの参加者を除いて多くは農業の未経験者であったため、中山地区の農家の方々から作業をご指導していただき、実体験として農業を学ぶことができました。中山の棚田では急斜面や狭い道があるため大規模な機械が使えず、場所によっては手作業や小型の機械を使い、棚田の伝統ある田植えや稲刈りの方法

や大変な点などを学びました。また、こうした耕作作業は学校の授業などではなかなか体験できないため授業で得た知識の理解も深まり、貴重な経験であったと感じます。

プロジェクトの活動では学生のみだけでなく地域の方々との連携も重要であり、次第に地域の現状が見られました。そのため、地域が抱える問題や課題が分かりこれらの問題に対して、地域の方からの直接の話や意見から私たちに求められていることを考えることができました。棚田の会として参加したイベントや収穫祭での活動は普段の学生生活ではできない経験でした。また、普段関わることのないような年代や多くの職種の方々と交流し、視野を広げることができたように思います。これらは今後の学生生活や就職活動においても役立つ経験です。



(稲刈りの様子)



(水路掃除の様子)



(ふれあい青空市の様子)



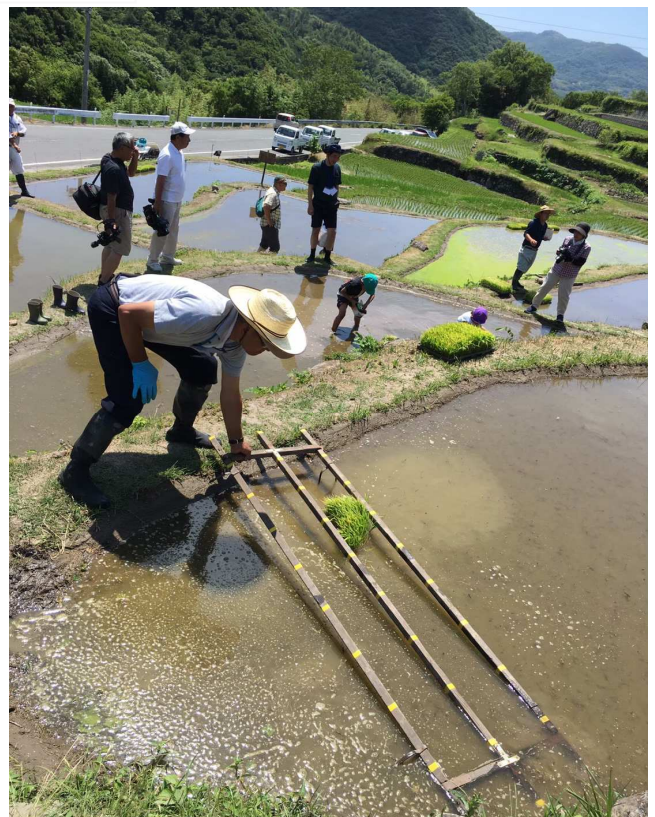
(虫送り当日の募金活動の様子)



(農村歌舞伎の様子)



(棚田学会通信の記事)



(オーナー制田植えの様子)



(農学部収穫祭の様子)

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度の反省点2つあります。一つ目はいただいた予算144,860円のうち、活動により執行した額が119,860円であって、25,000円という多額の返還額を出してしまった点です。我々の活動では予算の大半を小豆島へ渡るためのフェリー代が占めており、活動への参加者が計画していたよりも少人数であったため、交通費が計画よりも少額となったことが、多額の返還額を出してしまった原因です。また、行わなかった活動があったことも原因の一つであると考えられます。二つ目は不実行の活動があったことです。原因として、天候が悪かったことや、計画不足などがあげられます。来年度以降は次の代への引き継ぎと活動における計画をよりの確に行い、臨機応変に対応できるようにメンバー間の交流を深めることで、同様の失敗を繰り返さないように努めます。

今後の展望として、地域の方々との交流をさらに深めるなかで、水路掃除やオーナー制度ボランティアといった、地域の方々への貢献ができるような活動をさらに増やしていきたいと考えています。また、活動の維持・発展のため、新メンバーに活動の意義と目的の継承をし、活動の維持を目指します。活動を維持するだけでなく、小豆島の中山の発展と千枚田の景観保全のため、地域の方との交流を、活動を通して深め、よりよい活動ができるように発展させていく方針です。

さらに、中山の棚田や、私たちの活動への関心を集めるために、広報活動の拡大を行いたいと考えています。具体的には、芝浦工業大学、津田塾大学との学生対流事業「うまげな小豆島を感じてみまい」におけるプレゼンテーションや、棚田学会通信の記事執筆、インスタグラムなどによるSNSの活用を行う予定です。インスタグラムは現在すでに運用しており、現在関係者も含めて51のフォローをいただいています。活動を継続することにより、フォロワーは増加すると考えており、継続していくことが大切だと考えています。

7. 実施メンバー

| | | |
|-----|--------------|--------------|
| 代表者 | 杉田 碧唯（農学部2年） | |
| 副代表 | 桑原 七実（農学部2年） | 鈴木 芳幸（農学部3年） |
| 構成員 | 千葉 廉（農学部4年） | 中西 利樹（農学部4年） |
| | 坪井 昌弘（農学部4年） | 稲毛 大賀（農学部3年） |
| | 大槻 芹香（農学部3年） | 奥西 茉楠（農学部3年） |
| | 倉本 大樹（農学部3年） | 四宮 仁（農学部3年） |
| | 島村 祐成（農学部3年） | 玉置 裕也（農学部3年） |
| | 別所 歩武（農学部3年） | 古谷 仁紀（農学部3年） |
| | 宮脇 大典（農学部3年） | 尼崎 美帆（農学部2年） |
| | 西田 一葉（農学部2年） | 林 莉央（農学部2年） |
| | 藤井 誌音（農学部1年） | 堀内日向歩（農学部1年） |

8. 執行経費内訳書

| 配分予算額 | | 144,860円 | | |
|-------------|----|----------|---------|--------|
| 執行経費（品目等） | 数量 | 単価(円) | 金額(円) | 備考 |
| 備品補充 | 1 | 14,361 | 14,361 | フェリー利 |
| 虫送り火手作り 交通費 | 11 | 1,320 | 14,520 | 用の人数の |
| 虫送り 交通費 | 13 | 1,320 | 17,160 | 都合により、 |
| 虫送り 宿泊費 | 13 | 1,000 | 13,000 | 単価と金額 |
| 稲刈り 交通費 | 6 | 1,320 | 7,920 | に差が生じ |
| 中山農村歌舞伎 交通費 | 10 | 1,320 | 13,200 | る |
| 中山農村歌舞伎 宿泊費 | 6 | 1,000 | 6,000 | |
| 中山農村歌舞伎 参加費 | 1 | 19,070 | 19,070 | 学生1名が練 |
| | | | | 習に参加 |
| 収穫祭準備費用 | | | 14,629 | |
| 畦草刈り 交通費 | 0 | 1,320 | 0 | 執行しなか |
| 地域への報告会 交通費 | 0 | 1,320 | 0 | ったため |
| オナー制稲刈り 交通費 | 0 | 1,320 | 0 | 雨天のため |
| | | | | 中止 |
| 予算返還 | | | 25,000 | |
| 合 計 | | | 144,860 | |